

京都大学若手人材海外派遣事業 ジョン万プログラム
研究者派遣プログラム

成果報告書

提出日：平成25年 9月18日

1. 渡航者			
氏名	天満 敬	採択年度	平成25年度
部局	薬学研究科	電話	
職名	助教	メール	
研究課題名	ポジトロン断層撮像法 (PET) による非侵襲的生体イメージングと画像解析に関する研究		
海外渡航期間	平成25年 5月27日～平成25年 9月 8日		
2. 渡航に関する情報			
渡航先	国名：フィンランド 大学等研究機関名：トゥルク大学 研究室名等：トゥルク PET センター 受入研究者名：Juhani Knuuti 教授 (センター長)		
渡航期間中の出張 (渡航期間中に一時帰国や学会参加等の目的で短期の出張があった場合、その目的、行き先、期間を報告して下さい。) ※複数回に渡る場合、適宜行を追加して下さい。	出張先：オランダ国ユトレヒト、MILabs 社本社 目的：小動物用インビボイメージング装置 (PET/SPECT/CT/MRI) に実装予定の新技术に関する情報収集と実機開発状況視察 期間：平成25年7月25日～平成25年7月28日		
3. ジョン万プログラムによる成果			
以下の項目について、渡航期間中の成果、または今後見込まれる成果を具体的にお書き下さい。 ページ数については増加してもかまいません。			
国際共著論文の執筆 (論文の題名、雑誌名、共著者名、刊行予定等)	なし		

<p>更なる外部資金獲得に繋がる国際共同研究の立上げ／実施</p> <p>(国際共同研究の内容、実施計画、応募予定の外部研究資金等)</p>	<p>なし</p>
<p>国際研究ネットワークの新規構築／深化</p> <p>(参加した学会やその他の学術・交流組織、そこから構築／深化した研究ネットワークの内容等)</p>	<p>今回の滞在期間中に、渡航にあたり私を Knuuti センター長にご紹介いただいた国立循環器病センター研究所・飯田秀博部長の研究グループとトゥルク大学トゥルク PET センターとの国際共同研究のキックオフミーティングがトゥルク大学において一週間にわたり開催され、関係先生方のご厚意により私も全プログラムに参加できる機会を得た。これにより両研究施設との間に深い研究ネットワークが構築できたと考えている。</p> <p>また滞在期間中に、日本で初めて本学薬学研究科へ導入した小動物用 SPECT 装置の製造元であるオランダ国ユトレヒトの MIlabs 本社を訪問し、今後のサポートを含めた京都大学との研究ネットワークの深化を図った。</p>
<p>在外研究経験による研鑽</p> <p>(渡航先機関で得た研究の展開方法、研究室の運営方法、教育方針・人材育成方法等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週一回の小グループセミナーがあり進捗が報告される形式は私が所属する研究室と同様であった。 ・PET センターで行われる大型プロジェクトのキックオフミーティングでは、Knuuti センター長による強力なリーダーシップが発揮され詳細にわたって即断される様子は非常に印象深かった。 ・研究・臨床部門と別にマネジメント部門が完全に独立しており、研究者が研究に専念できる環境が整っていると感じた。日本においては残念ながら教員が教育・研究に専念できる環境が整っているとは感じられないので、この点はぜひ将来的に改善していかなければならないと感じた。
<p>フィールド研究の進展</p> <p>(渡航先国で実施した実地調査や文献調査等の内容)</p>	<p>なし</p>